

## 1 道徳科の改訂のポイント

- これまでの「道徳の時間」を要として学校の教育活動全体を通じて行うという道徳教育の基本的な考え方を、適切なものとして今後も引き継ぐとともに、道徳の時間を「特別の教科 道徳（以下「道徳科」という。）」として新たに位置付けられた。
- 道徳教育及び道徳科の目標を明確で理解しやすいものとするとともに、その目標は、道徳性を養うことであることを前提としつつ、各々の役割と関連性を明確にした分かりやすい規定とされた。
- 道徳教育に関わる規定を、学習指導要領「第1章 総則」に示すとともに、道徳教育の内容については、「第3章 特別の教科 道徳」の中に示す内容であることが明記された。

## 2 道徳科の目標及び内容

### (1) 道徳科の目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

(「第3章 特別の教科 道徳」の「第1 目標」)

- 道徳科は、児童一人一人が、学習のねらいに含まれる道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、内面的資質としての道徳性を主体的に養っていく時間である。

### (2) 道徳性を養うために行う道徳科における学習

#### (道徳的諸価値について理解する)

道徳的価値の意義や大切さを理解するとともに、道徳的価値が人間らしさを表すものであることに気付き、価値理解と同時に人間理解や他者理解を深めること。

**価値理解**：道徳的価値を人間としてよりよく生きる上で大切なことだと理解すること  
**人間理解**：道徳的価値は大切であっても実現することが難しい人間の弱さなどを理解すること  
**他者理解**：道徳的価値を実現したり、実現できなかつたりするときの感じ方、考え方は多様であることを理解すること

#### (自己を見つめる)

これまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方を想起し確認することを通して道徳的価値に関わる自分の現状を認識し、道徳的価値についての考えを深めること。

#### (物事を多面的・多角的に考える)

児童が多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協働したりしながら、物事を一面的に捉えるのではなく、様々な視点から多面的・多角的に考えること。

#### (自己の生き方についての考えを深める)

道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることを通し

て形成された道徳的価値観を基盤として、自己の生き方についての考えを深めること。

### (3) 道徳教育の要としての道徳科

- 道徳科は、各教科等で行う道徳教育としては、取り扱う機会が十分でない内容項目に関わる指導を補う補充や、児童や学校の実態等を踏まえて指導をより一層深める深化、内容項目の相互の関連を捉え直したり発展させたりする統合の役割を担っている。

<p><b>補 充</b>：学校の諸活動で考える機会を得られにくい道徳的価値などについて補う役割</p> <p><b>深 化</b>：道徳的価値の意味やそれと自己との関わりについて一層考えを深める役割</p> <p><b>統 合</b>：道徳的価値に関わる諸事象を、捉え直したり発展させたりして、新たな感じ方や考え方を生み出すという統合としての役割</p>
--

### (4) 道徳教育で養う道徳性の諸様相

- 道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり、道徳教育は道徳性を構成する諸様相である道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲と態度を養うことを求めている。

<p><b>道 徳 的 判 断 力</b>：様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力。</p> <p><b>道 徳 的 心 情</b>：道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のこと。</p> <p><b>道徳的実践意欲と態度</b>：道徳的心情や道徳的判断力によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性。</p>
---

## 3 道徳科の内容

- 学習指導要領「第3章 特別の教科 道徳」の「第2 内容」は、教員と児童が人間としてのよりよい生き方を求め、ともに考え、ともに語り合い、その実行に努めるための共通の課題であるとともに、学校の教育活動全体の中で、様々な場や機会を捉え、多様な方法によって進められる学習を通して、児童自らが調和的な道徳性を養うためのものである。
- 内容項目のまとまりを示していた視点については、従前通り四つの視点によって内容項目を構成して示し、児童にとっての対象の広がり即して、整理し順序を改めた。

<p>A 主として自分自身に関すること</p> <p>B 主として人との関わりに関すること</p> <p>C 主として集団や社会との関わりに関すること</p> <p>D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること</p>
---

- 道徳科の内容項目は、「第1学年及び第2学年」が19項目、「第3学年及び第4学年」が20項目、「第5学年及び第6学年」が22項目にまとめられている。なお、年間指導計画を作成するに当たっては、各学年段階の内容項目について、相当する各学年において

全て取り上げることとする。

## 4 道徳科の指導

### (1) 道徳科の特質を生かした学習指導

- 道徳科の指導においては、児童一人一人が道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めることで道徳性を養うという特質を十分考慮し、それに応じた学習指導過程や指導方法を工夫することが大切である。それとともに、児童が自らのよさや成長を実感できるように工夫することが求められる。
- 道徳科の学習指導過程には、特に決められた形式はないが、一般的には導入、展開、終末の各段階を設定することが広く行われている。

<p><b>導 入</b>：主題に対する児童の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図る段階</p> <p><b>展 開</b>：ねらいを達成するための中心となる段階であり、中心的な教材によって、児童一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる段階</p> <p><b>終 末</b>：ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぐ段階</p>
---

### (2) 問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導

- 道徳科においては、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を行う。こうした道徳科の特質を生かすことに効果があると判断した場合には、多様な方法を活用して授業を構想することが大切である。

#### 道徳科における質の高い多様な指導方法の例

- ・ 読み物教材の登場人物への自我関与を中心とした学習  
教材の登場人物の判断と心情を自分との関わりにおいて多面的・多角的に考えることを通し、登場人物に自分を投影して、その判断や心情を考えることにより、道徳的価値の理解を深めること。
- ・ 様々な道徳的諸価値に関わる問題や課題を主体的に解決する学習  
生徒の考えの根拠を問う発問や、問題場面を自分に当てはめて考えてみることを促す発問を通して、問題場面における道徳的価値の意味を考えさせること。
- ・ 道徳的行為に関する体験的な学習  
役割演技などの疑似体験的な活動を通して、実際の問題場面を実感を伴って理解することで、様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うこと。

## 5 道徳科の評価

児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

（「第3章 特別の教科 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の4）

### (1) 道徳科の評価の在り方

- ・数値による評価ではなく、記述式とすること。
- ・個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること。
- ・他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行うこと。
- ・学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること。
- ・発達障害等のある児童生徒が抱える学習上の困難さの状況等を踏まえた指導及び評価上の配慮を行うこと。
- ・調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにすること。

### (2) 道徳科の授業における児童の評価の視点の例

#### (一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているかどうか)

- ・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしている。
- ・自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。
- ・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている。

#### (道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか)

- ・読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。
- ・現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見つめ直している。
- ・道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている。
- ・道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。